

【野村委員長】 それでは、続いての議題について、事務局からご説明をお願いします。

【小山法人担当課長】 ご説明いたします。

経済戦略局が所管する外郭団体でございます公益財団法人大阪国際交流センターの令和3年度経営評価につきまして、大阪市外郭団体等への関与及び監理事項等に関する条例第7条第4項の規定に基づき、諮問をいたします。

内容につきましては所管所属からご説明させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【野村委員長】 お願いします。

【経済戦略局】 経済戦略局の国際担当課長の橋本と申します。よろしくお願いいたします。

公益財団法人大阪国際交流センターの令和3年度事業経営評価につきまして、お手元の資料に沿ってご説明いたします。以下、当該団体を財団と呼ばさせていただきます。

まず、1ページ目でございますが、様式1をご覧ください。

財団の中期目標についてです。(1)当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容です。本市に居住する外国人住民を公的支援の受け手という視点に加えて、主体的に大阪を共につくる担い手と位置づけ、外国人住民のもたらす多様性を生かし、活力あふれる魅力あるまちづくりを目指すというビジョンの下、外国人住民が地域社会の一員として地域と交流し、安全・安心で快適に暮らし、活躍できる多文化共生社会を実現していくための取組を進めていくこととしておりました。

(2)は中期目標期間でございますが、令和2年12月1日から令和6年3月31日までです。今回が初めての事業経営評価に当たります。

(3)中期目標の期間終了時において、(1)の行政目的又は施策によって実現しようとする状態でございますが、国籍や民族の異なる人々が互いの文化を認め、地域社会の一員として共生することができる社会の実現に向けて、外国人住民が多文化共生の担い手として共に地域社会において活動することについて、当該地域社会の住民の理解が深まり、当該活動を促進しようとする意識が高まっている状態としておりました。

その下、下段の当該事業年度評価でございます。

まず、外郭団体の自己評価ですが、団体の総合的な評価は、コロナ禍においても対策を講じながら事業を実施し、全ての指標において目標値を達成することができたことから、ア、順調としております。

その右ですが、次年度以降の取組につきまして、後半から読ませていただきます。次年度以降も引き続き区役所、社会福祉協議会をはじめとした地域団体、外国人コミュニティ、大学等との連携やネットワークの構築に努め、外国人住民への活躍の場を提供するとしております。

これを受けた市の評価でございます。団体の個別の取組においては、全ての指標において目標値を達成しており、順調に事業実施を行い、成果を上げていると評価できる。コロナ禍においてイベント等がなかなか困難な状況の中で工夫を重ね、実施している点にも努力がうかがえ、引き続き取組を期待する。

市における中期目標の達成状況の測定に当たりましては、アンケートを行い、結果を得ました。当年度の目標67%に比して、73.8%と目標を上回りました。しかし、この結果が一過性に終わることなく、今後も目標を上回る水準を維持できるよう、引き続き堅実な事業継続が必要であるとしております。

続きまして、2ページ目でございます。様式2、対象事業活動の実績に関する評価の取組ごとを見てまいります。

まずは事業の実施期間でございますが、年度計画の期間が令和3年4月からであることから、本報告における評価対象は全て令和3年4月から12月のものでございます。この9か月間の期間に対応した目標値に対しての実績を報告していきます。

まず、取組1、中期計画記載の団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容でございます。外国人住民等の地域社会における活動機会の提供としておりました。内容は主に2点、外国人住民に活動機会を提供して、交流を促進すること、もう1点が、外国人留学生の活動の機会の提供でございます。

これに基づく年度計画の達成状況です。

1つ目、多文化交流会を開催するという計画でございました。市社協等の協力を得て目標を達成し、指標のⅠ、外国人住民が参加や参画を通じて地域社会において日本人住民と交流する機会となる事業の実施回数。これにつきましては、目標値の3件に対して実績は4件でございました。

2つ目、留学生が講師となり、高校生と英語や韓国語会話を教えながら交流する事業を実施するという計画でございました。今年度は天王寺区内の高校を対象に実施し、指標のⅡのとおり、留学生に活動の機会を提供した件数といたしまして、実績値は目標値の75件を上回る90件となりました。

よって、指標Ⅰ、Ⅱとも、当該年度の目標達成状況はa（i）、目標達成、取組は予定どおり実施となります。

外郭団体の自己評価についてでございます。指標の達成状況、A、指標全部達成、中期計画に対する進捗状況、ア、順調。

当該事業年度の達成状況につきましては、指標Ⅰについては、新規事業でありましたが目標値を超えて開催することができた。また参加者の満足度もとても高かった点、指標Ⅱについては、ディベート形式での討論を生徒たちに体験してもらえる英語講座や韓国語会話の初級コースを開講するなどした点を挙げています。

最終目標、中期計画達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組につきましては、指標Ⅰについては、新たな共催団体の確保に努め、開催エリアの拡大に努めるとともに、多文化交流会をきっかけに地域住民が自ら交流を深めていけるよう、市民局が発行しました多文化交流ガイドブックの活用についてさらに働きかける。

指標Ⅱにつきましては、留学生の招集において、これまでの参加学校に加え、財団がインターン等を受け入れている諸大学、学校にも参加を呼びかけ、さらに多国籍で多文化を専攻する留学生の獲得、活動機会の提供に努めます。また、講座に参加する高校生についても、引き続き参加高校や参加生徒数の拡大に努めるとしております。

これを受けまして、市の審査の欄です。中期計画に対する進捗状況、ア、順調。様式1、中期目標（3）に対する取組の有効性、A、有効であり、継続して推進。

外郭団体の自己評価に対する審査結果です。指標Ⅰ、Ⅱともに目標値を達成している。指標Ⅰにつき、開催回数だけではなく、参加者満足度も高い点、指標Ⅱについては、高校と協議し、受講者のニーズを酌み取りながら柔軟に運営している点、また指標Ⅰ、Ⅱとも、次年度以降の取組について、今年度の成果を踏まえた上でエリアや参加者等の拡大に向けた取組を検討していることから、今後も順調な実施が期待できる。順調であるとの団体の自己評価は妥当であると考えております。

中期目標達成の視点から見た審査結果です。全ての指標において目標値を達成していることから、外国人住民等が地域社会において活動する機会を着実に提供しており、外国人が地域社会の一員として地域と交流し、活躍できる社会の実現に向けて有効な取組を行っていると考えます。指標Ⅰに関しては、多文化交流会の開催のみにとどまらず、参加者自らがその後、交流を深められるよう、指標Ⅱに関しては、感染対策に配慮しつつ、引き続きの取組を期待するとしております。

続きまして、3ページでございますが、取組2に移ります。

中期計画記載の具体的な内容は、多文化共生についての理解促進に向けた住民への情報発信として、取組が主に3つ。

1つ目は、3行目ですが、達人の発掘。達人とは、自国の文化紹介や日本での生活情報の発信ができる外国人住民を登録する制度です。2つ目が、同じく3行目の達人の活動支援、3つ目が、5行目にあります、地域社会へのアプローチ。それぞれ指標Ⅲ、Ⅳ、Ⅴに対応しております。

これに基づく年度計画の達成状況です。

1つ目、指標Ⅲ、達人の新規登録者としておりましたが、目標値の6名に対して、実績値は9名。

次に、指標Ⅳ、その達人を支援して行う、ウェブサイトを通じた情報発信件数は、目標値の15件に対して、実績値は16件。

その下、指標Ⅴ、情報発信を連携して行う活動団体や事業者の発掘件数は、目標値の2団体に対して、実績値も2団体ということで、全て目標を達成いたしました。

指標Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、いずれも当該年度目標達成状況はa(i)、目標達成、取組は予定どおり実施となります。

続きまして、外郭団体の自己評価についてでございます。指標の達成状況、A、指標全部達成、中期計画に対する進捗状況、ア、順調、当該事業年度の達成状況については、取組を通じてネパールやイラン、オーストラリア、台湾など、より多様な国、地域から達人を獲得することができた点、ネットワークが広がった点を挙げています。

次年度以降の取組については、指標Ⅲについては、財団と関わりのある外国人だけではなく、在阪の総領事館や外国人コミュニティに働きかけるなど、より広い人材発掘に努める。

指標Ⅳについては、生活情報の発信だけではなく、達人自らが企画・実施するイベント情報の発信支援を努め、日本人等が多様な文化に触れる機会を提供する。

指標Ⅴについては、ウェブ上で連携できるサイトなどの情報を収集し、情報発信団体の確保に努めるとしております。

これを受けまして、市の審査の欄です。取組1と同じく、アのAとしております。

外郭団体の自己評価に対する審査結果です。指標Ⅲ、Ⅳ、Ⅴとも、目標値を達成している。多様な国、地域から達人を獲得することができた点、ネットワークが広がった点から、

情報発信の内容・対象ともに今後の充実が期待できる。また、今後の展開に向け、これまで関わりが薄かった総領事館との連携という新たな手段を検討していることから、今後の展開に向けた課題認識も的確である。順調であるとの団体の自己評価は妥当であると考えております。

中期目標の達成の視点から見た審査結果です。全ての指標において目標値を達成しており、多文化共生についての理解促進に向けた住民への情報発信を着実に実施していることから、外国人住民が安全・安心で快適に暮らし、活躍できる多文化共生社会の実現に向けて有効な取組を行っていると考えております。

指標Ⅲについて、課題認識の上で新たな手段を検討している点、Ⅳ、Ⅴについては、コロナ禍という特殊な状況においてもその中で有効な取組を模索し、目標値を達成している点から、引き続き取組を期待するとしております。

ご説明は以上でございます。

【野村委員長】       ありがとうございます。

では、委員の皆さんからご意見やご質問がありましたらお願いします。

【堀野委員】       堀野から1点、質問させていただきます。

取組1で、指標Ⅱの方なんですけれども、高校生向けのそういった取組と、留学生との交流ということなんですけど、これで天王寺区内の公立高校4校を対象に実施するということで、この高校を対象に90回開催したということと理解したんですが、これは天王寺区を重点的に取り扱う、そういう地域というふうになにかしたのか、それとも結果的に、いろいろ高校に当たったところ、この区域の公立高校だったら対応しますということで高校からご協力いただいたのか、その関係について教えていただければと思います。

【経済戦略局】       この国際交流センターの財団が天王寺区内にございます。日頃からやっぱり地域に密着した活動をしておりまして、そういった関係性もございまして、まずは天王寺区の地元の学校からやっていこうということで、将来的にはもちろん区を超えてやっていくと思うんですが、まずは単年度でできるということで、天王寺区の4校に声をかけていただいたということになります。

【堀野委員】       ありがとうございます。

これ、令和2年度も実施されているようなんですけど、そのときも天王寺区で。

【経済戦略局】       そうですね、はい。

【堀野委員】       ということは、もうここである程度、2年ぐらい実績を重ねているので、

この実績をもってほかの地域の高校の方にも活動を広げていくということですかね。

【経済戦略局】 ええ、まずはやってみて、その結果というか、それをほかの学校にもお伝えしながら、成功事例といいますか、その上で活動を広げていこうかと考えております。

【堀野委員】 ありがとうございます。

【佐藤委員】 委員の佐藤です。よろしくお願いいたします。

今はコロナ禍でかなりご苦労されていると思うんですけど、令和2年度はそれほど実績が出てなかったような、達人はゼロであるとか、あるんですけど、特に工夫されて令和3年度は何か方針を変えられたりとか、何か転換されたことがあるのであればそれも教えていただけますでしょうか。

【経済戦略局】 令和2年度は、やっぱりコロナの初年度ということで、なかなかどう活動していったら良いのか難しいというのがあって、3年度につきましては、一定、同じコロナ禍ではありますが、緊急事態宣言のときとか解除のときとか、そういった波がありましたので、落ち着いた時期とかを捉えまして活動していったと。あと、バーチャルでやる場合、そういったことについては慣れてきたと。

財団が努力したと聞いていますのは、多文化交流会とか、地域の方って結構お年寄りが多いんですが、そういう方に対してバーチャルでやり取りする場合も、いろいろ機器の扱い方とか、そんなのも一緒に教えていきながら開催にこぎ着けたというのも聞いておまして、財団の方はかなり努力してコロナ禍に対応した取組をされているということで、こういう結果につながっているのかなと考えております。

【佐藤委員】 分かりました。コロナに慣れてきたというのものもあるんでしょうね。

【経済戦略局】 そうですね。

【佐藤委員】 よく分かりました。

【市口委員】 市口です。よろしくお願いします。

ちょっとお聞きしたいんですけども、たしか2年ぐらい前に、こちらの団体さんの説明で、近年大阪市内に居住している外国籍の方、外国出身の方の中で、特にベトナムの方がすごく増えているんだというご説明があったのを記憶しております。特にベトナム出身の方については、対処していきたいというような内容がたしかあったような記憶をしているんですけども、もちろん今回のいろんな取組の中で、例えば留学生の講師の中には確かにベトナムの方がおられるということですが、例えば達人の登録の出身の方で見る

と、具体的にはベトナムというのが載ってきてないような形になっているんですけど、もちろんベトナムの方だけじゃないと思うんですけど、いろんな地域、国のご出身の方が多いと思うんですけども、その辺り、何かそういう、多分ベトナム出身の方、ほんとに増えていると思うので、そのことについてはこちらの財団さん等でお考えのこととか、何かありましたら教えていただきたいんですけども。

【経済戦略局】 今、先生おっしゃいました、達人の方、ベトナムの方、実はちょっと書いてないんですけどいらっしゃいまして、ベトナム料理の作り方とか、あと文化紹介ということで、1名の方、エンジニアで5年前に来日した方なんですけど、達人になっていたみたいです。

おっしゃるとおり、ベトナム人の方、2年前ですか、増えているということで、その状況は今も変わっておりません。ちょっと入国制限がありますので、その辺のばらつきはあるんですけど。

そういった中で、我々、やっぱりこれは別にベトナムだけに限らないんですけど、外国人の方にどうしたら財団でやっている情報を、いろいろ、お住まいの支援というか、そうした情報を流すことができるかというのを苦慮しておりまして、やっぱり外国人の方って市内に拠点拠点で集まりをつくっている、いわゆるコミュニティと言っているんですけど、そういったところもありますので、そこを通じて我々も把握しながら情報提供できないかと考えておりまして、今般取り組んでいますのは、先ほどもちらっと申し上げましたが、在阪の領事館、そのチャンネルを通じてそういう情報をお届けできないかということで、先日私もベトナム領事館、堺にあるんですが行ってまいりまして、ちょっとそういった話をすると、領事館側も住んでいるベトナムの方が、いろんな生活情報を欲しいという声を聞くということで、ベトナム側のニーズと我々の供給ニーズというか、そこは一致していますので、領事館からベトナムの青年の集まりの団体とか、そんなのをお教えいただいて、その場に我々で行って説明するとか、あと、そういったところを通じて住んでいるベトナムの方に情報を提供するとか、ちょっとそんな地道な作業になるんですけど、そういったことをこれからそういうきっかけを見付けて取り組んでいきたいと考えております。

【市口委員】 分かりました。ありがとうございます。

【水上委員】 委員の水上です。よろしくお願いいたします。

先ほど少しご説明があったかと思うんですけど、取組1の指標Iの関連で、バーチャルでやられたという認識でよろしいでしょうか。多文化交流。

【経済戦略局】 中心はリアルですね。リアルでやっていますね。昨年度は4回やりまして、開催した4回は全てリアルでやっています。

【水上委員】 遠隔の機器も少しは使われたということではなく、もう全て対面で。

【経済戦略局】 西区でオンラインのものがありませんでしたね。1回だけオンラインで開催。これはこれからなんですけど。5回中の1回がオンラインを予定しております。

【水上委員】 10月から12月というのは、タイミングを見計らって、この短い期間で4回やられたという。

【経済戦略局】 そうですね、ちょうど5波と6波の間、そこにやらせていただきました、申し上げましたが、民生委員とか、それから地域の振興会の方ですので、かなりご高齢の方がいらっしゃる、よくご参加いただいたと思っています。

お声を聞くと、どの人も近所に外国の方が住んでおられるというのを認識されていて、やっぱり気になってたんですよ。ただ、こういう交流というか、そういうきっかけがなかった、そういう話というか意識というか、なかなか至らなかった、やっぱりこういうきっかけを作っていたのはありがたいという、ご年配の方もいらっしゃる、したので、効果というか、満足度もほぼ100%に近い形で頂いていますので、こういった取組はちょっと地道ですけど、続けていく必要があるかと考えております。

【水上委員】 先ほど高校の方は成功事例というようなこともおっしゃっていたように思うんですけども、指標Ⅰの方の取組というのは今後新しい地域でやられていくのか、また来年度、再来年度の5件というのは今回の地域と同様の地域でやられていくのか、何か今後の展望を教えてくださいませんか。

【経済戦略局】 そこはまた新たな地域でというのを考えていきたいですね。

【水上委員】 これ、スムーズに行えれば良いと思うんですけども、対面でまた新しい地域で、その期間もいつやれるのかって分からない状態で年度がスタートしていくのは非常に大変なところかと思うんですが、これから1件、オンラインでやられるんですかね。

【経済戦略局】 そうですね、2月に1件ですね。西区で予定しています。

【水上委員】 そういうノウハウが蓄積されていけば指標も今後も達成できるかと思うので、いろんな方法でご検討いただければと思います。

【経済戦略局】 ちょっと感染状況を見ながらということですので、なかなか難しいんですけど、そこは財団の支援等で頑張りたいと思っています。

【水上委員】 承知しました。ありがとうございます。

【野村委員長】 野村から1点だけお伺いします。

最初のページの当該事業年度の評価というところで、市の評価で、アンケートを行って結果を得たら、目標67に対して73.8と目標を上回ったということなんですけども、これは市のウェブサイトとかでアンケートを掲載していたんでしたっけ。

【経済戦略局】 そうですね、オンラインアンケートですね。行政オンラインアンケートという形で。

【野村委員長】 大体どれぐらいの数のアンケート。

【経済戦略局】 500件ほど集まりまして、今回我々が対象としているのは市内居住の方ですので、それは300件ほどですので、300件の集計という形になります。

【野村委員長】 思ったよりというか、良い感じでアンケートが実施できたというような評価になりますでしょうか。

【経済戦略局】 はい。

今回73.8と、目標点、高い数字が出ているんですけど、やっぱり上振れ、下振れって今後もあると思うんですよ。ですので、今回73.8で上がったということじゃなくて、引き続き事業をやることによってそれが平均的に右肩上がりになるような、そんなことができれば良いかと思っております。

【野村委員長】 そうですね、このアンケートに答える方というのは、交流センターの活動と関係性は必ずしもないんですよ。

【経済戦略局】 そうです、はい。

【野村委員長】 なかなか取組の結果としての結びつきが見えづらいところはあるかと思うんですけども、でも取りあえず今回はクリアということで、良かったと思います。ほかにはよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

【野村委員長】 では、質疑応答については以上で終了とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、答申の取りまとめですけども、交流センターについても特に意見なしでよろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

【野村委員長】 じゃ、意見なしでの取りまとめをお願いいたします。

【小山法人担当課長】 ありがとうございます。また原案をご確認いただきます。

【野村委員長】      それでは、次の案件から非公開となりますけれども、関係者以外の方はいらっしゃらないですね。